

陸上自衛隊 ニュースリリース

JGSDF News Release

<http://www.mod.go.jp/gsdf/news/press/>
(お知らせ)



30.8.23
陸幕広報室

国内における米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー）の概要について

陸上自衛隊は、下記のとおり国内における米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー）を実施しますので、お知らせいたします。

1 目的

陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米共同による諸職種協同作戦を実施する場合における相互連携要領を実行動により訓練し、相互運用性の向上を図る。

2 期間

平成30年9月10日（月）～29日（土）

3 場所

北海道大演習場、矢臼別演習場、上富良野演習場等

4 担任官

- (1) 陸上自衛隊
第2師団幕僚長 1等陸佐 きのだ すすむ 木之田 進
- (2) 米海兵隊
第36海兵航空群長 大佐 ジェームス F. ハープ (James F. Harp)

5 訓練実施部隊

- (1) 陸上自衛隊
ア 部隊
第2師団第25普通科連隊、第2特科連隊等（約1250名）
イ 装備品
89式5.56mm小銃、5.56mm機関銃MINIMI、12.7mm重機関銃、81mm迫撃砲、120mm迫撃砲、M24対人狙撃銃、99式155mm自走榴弾砲等
- (2) 米海兵隊
ア 部隊
第36海兵航空群、第2海兵師団第2海兵連隊第3大隊、第12海兵連隊（砲兵）第3大隊等（約1500名）
イ 装備品
5.56mm小銃、7.62mm中機関銃、7.62mm狙撃銃、60mm迫撃砲、81mm迫撃砲、対戦車ロケット砲、高機動ロケット砲システム（HIMARS）、航空機（MV-22、CH-53）等

6 備考

本訓練は、平成28年9月1日付の日米合同委員会合意に基づき、沖縄県外での訓練の一層の推進を図り、訓練活動に伴う沖縄の負担を軽減するため、現在普天間飛行場に所在するティルト・ローター機等の訓練活動を沖縄県外に移転し、実施するものです。

(問い合わせ先)

陸上幕僚監部広報室 安達、西村（担当）
(03-3268-3111 内線40084)

国内における米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー：NV）

1 目的

陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米共同による諸職種協同作戦を実施する
場合における相互連携要領を実行動により訓練し、相互運用性の向上を図る。

2 期間

平成30年9月10日（月）～29日（土）

3 場所

北海道大演習場、矢臼別演習場、上富良野演習場等

4 実施部隊（人員）

- ・ 陸 自：第2師団第25普通科連隊、第2特科連隊等（約1250名）（旭川駐屯地所在）
- ・ 米海兵隊：第36海兵航空群、第2海兵師団第2海兵連隊第3大隊、第12海兵連隊（砲兵）第3大隊
等（約1500名）（普天間海兵隊航空基地、沖縄キャンプ・ハンセン等所在）

訓練イメージ

【指揮機関訓練】



幕僚見積



作戦会議

【機能別訓練】



空中機動



特科射撃

【総合訓練】

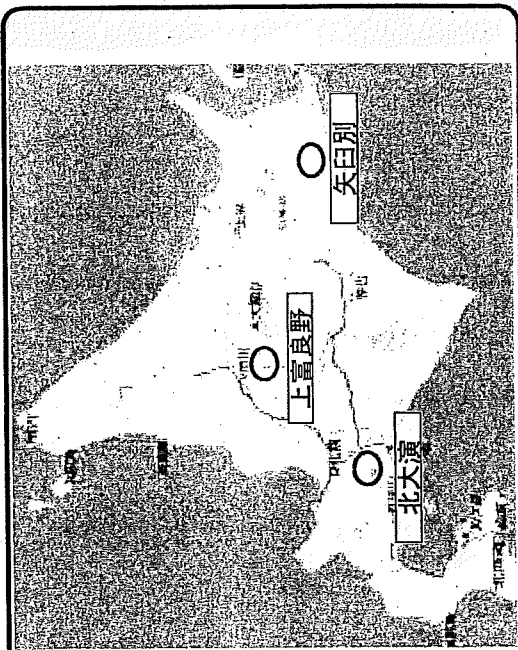


共同攻撃



日米調整

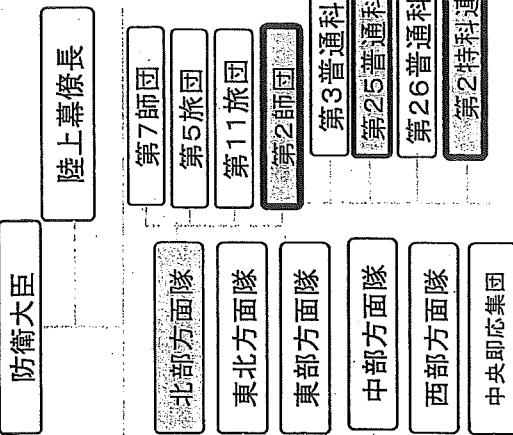
訓練場所



編成・装備

陸上自衛隊

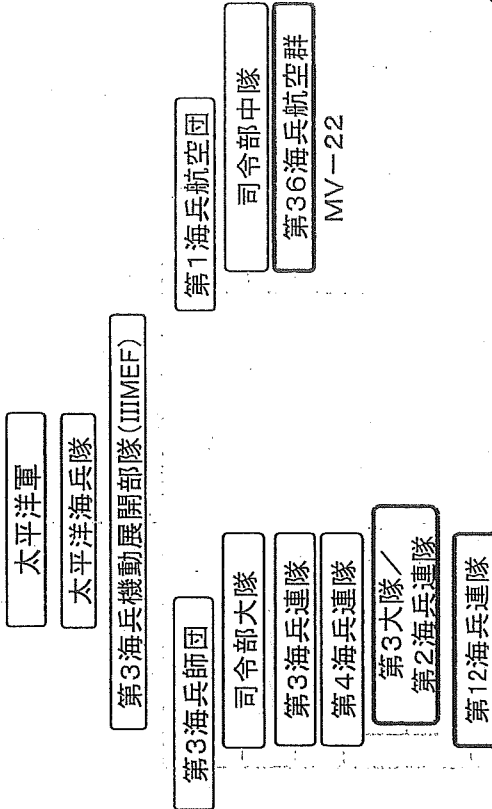
日側：第25普通科連隊、第2特科連隊等
(約1250名)



編成

米海兵隊

米側：第36海兵航空群、第2海兵師団第2海兵連隊第3大隊、
第12海兵連隊(砲兵) 第3大隊等(約1500名)



装備 (一部)

【5.56mm小銃】



【7.62mm機関銃】



【60mm迫撃砲】



【HIMARS】



【MV-22】



【89式小銃】 【5.56mm機関銃】 【81mm迫撃砲】



【15HSP】



※ 本訓練におけるMV-22オスプレイの訓練については、平成28年9月1日の日米合同委員会合意により検討され、訓練移転の枠組みで実施されることとなった。

(お知らせ)

平成30年8月23日
防 衛 省

米軍再編に係る訓練移転（回転翼機及びティルト・ローター機等の沖縄
県外への訓練移転）に関する訓練計画概要について

回転翼機及びティルト・ローター機等の沖縄県外への訓練移転（日米共同訓練：国内に
おける米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー））に関する訓練計画概要について、
以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

今回の訓練移転は、平成28年9月1日付の日米合同委員会合意に基づき、沖縄県外で
の訓練の一層の推進を図り、訓練活動に伴う沖縄の負担を軽減するため、現在普天間飛行
場に所在するティルト・ローター機等の訓練活動を沖縄県外に移転するものであり、今回
で訓練移転は6回目（国内5回、グアム等1回）となります。

○ 訓練期間：平成30年9月10日（月）～9月29日（土）

○ 参加部隊：〔米軍〕

第36海兵航空群第265海兵隊中型ティルト・ローター機飛行隊（普
天間）、第2海兵師団第2海兵連隊第3大隊、第12海兵連隊（砲兵）第
3大隊等

〔陸上自衛隊〕

第2師団第25普通科連隊、第2特科連隊等

○ 訓練場所：北海道大演習場、矢臼別演習場、上富良野演習場等

○ 訓練項目：ヘリボン訓練、空挺降下訓練等

○ 参加規模：〔米軍〕

MV-22×6機程度、CH-53×4機程度等

※人員、物資輸送のため輸送機の飛来もあり得る。

人員1500名程度

〔陸上自衛隊〕

人員1250名程度

※1 MV-22は、本訓練の機体整備等のため帯広駐屯地を使用予定です。

※2 本内容については、今後、変更される場合があります。

以 上

30. 8. 23

北海道防衛局

国内における米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー）について
（補足事項）

平成30年9月に実施する本訓練に際しては、米海兵隊の航空機であるMV-22及びCH-53の機体整備等のため、帯広駐屯地及び十勝飛行場を以下のとおり使用する計画です

【使用期間】 9月10日～9月29日（土日を含む）

【使用部隊】 第36海兵航空群第265海兵隊中型ティルトローター機飛行隊等

【使用内容】 機体整備、航空機の離発着等

- 【その他】
- 1 基本的に毎日離着陸をします。
 - 2 離発着時間は8時から日没を基本とし、最大22時までです。
 - 3 場周経路を含む使用の態様は、陸上自衛隊の運用と同様です。
 - 4 本紙記載事項に変更等が生じた場合は、その都度お伝えします。

以上

帯広駐屯地を使用する日米共同訓練に関する要望書

この度、日米共同訓練が道内で実施され、航空機の機体整備等のため帯広駐屯地が使用されることが公表されました。

オスプレイの安全性に対する市民の不安が払拭されている状況とは言い難く、駐屯地が市街地に隣接している本市としては、訓練における航空機の運用に関し安全の確保等に懸念をもっております。

帯広駐屯地を使用する日米共同訓練の実施にあたりましては、国による十分な説明や安全管理の徹底のほか、十勝飛行場の運用に関して昭和59年に締結した「環境保全に関する協定書」を尊重し、市民生活に支障をきたすことがないように、下記の事項について、最大限の配慮をお願いいたします。

記

- 1 国の責任において、万全の安全対策を講じること。
- 2 航空機の離発着をはじめとする訓練内容や安全対策等について、最大限詳細な情報提供を行うほか、自ら積極的に情報を発信し、市民の不安の払拭に努めること。
- 3 航空機の飛行や離発着にあたっては、住宅密集地や学校などの上空を避けるとともに、飛行時間や飛行高度などに配慮し、騒音により市民生活に影響を及ぼすことのないようにすること。
- 4 騒音の測定のほか、事故発生等に即座に対応するため、現地に連絡窓口等を設置するとともに、市民等からの問い合わせ等に応じること。
- 5 事故の防止や規律の維持、市民生活への配慮など、訓練に携わる全ての者に対する意識啓発や教育に努めること。

平成30年8月28日

北海道防衛局長 高木健司様

帯広市長 米沢則寿